

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401134		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 千葉小倉		
所在地	千葉県千葉市若葉区小倉町1802-15		
自己評価作成日	令和1年10月31日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援(役割をもって生活していく) 下肢の浮腫の軽減(足浴ケア) 行事の充実(楽しみのある生活) 地域交流(おぐら食堂)
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://mcs-ainoie.com/ins48.html">https://mcs-ainoie.com/ins48.html</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和1年11月8日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在は運転が苦手な若い職員が多く、外出する機会が少なくなってきたので、食べることで楽しんでもらっている。食事制限のある利用者がいないため、原則メニューは有るが新聞の広告を広げて希望により今日食べたいものを作って食べてもらっている。しかし、最近運転の得意な職員が入社し、今後は外出計画を立案し外食も大いに楽しんでもらう予定である。夜間以外昼間は玄関が開放され、利用者は自由に外へ出て庭で散歩をしたり畑で収穫を楽しんでいる。グループホームを近隣の方々に知ってもらうために「おぐら食堂」を開設しワンコイン(500円)で食事をしてもらい、同時に運営推進会議を実施したいと思っている。職員は自分のロッカーにホームの理念に沿った年間目標を掲げ、○△×を記入し毎月目標が達成出来たかどうか、振り返り確認し合っている。
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、唱和している	事業所理念として「安心・安全の確保」「個々のケアを大切に」「サービスの質の向上」を掲げ、申し送り時や全体会議の時に唱和し実践に繋げている。また、職員は自分のロッカーに事業所の理念に沿った年間目標を掲げ、○△×を記入し、毎月目標が達成できたかを振り返り確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ふれあいいきいきサロンに参加している。(月1回) 近隣のお店に御利用者様と買い物に行っている。近隣の方が広告でごみ箱を折り、届けて下さる。毎年職場体験の受け入れを行っている。(中学校)	自治会に加入し、毎月回覧板を見て利用者が参加できる新年会や盆踊りに参加し交流している。施設としては今年度3月頃にバザーを行う企画を立てている。また、GHを近隣の方々に知ってもらうため施設に「おぐら食堂」を開設し、ワンコイン(500円)で食事をしてもらう予定で、現在7名の申し込みがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、ふれあいいきいきサロンに参加し、地域の方と同じレクリエーションを楽しんだり、コミュニケーションを図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長さんに参加していただき、ホームの取り組みを話している。	自治会長、ケアマネ、入居希望者、ボランティア、家族等がメンバーとなり年4回開催を予定し、市へも声掛けをしているが出席してもらえず、参加者が少なく年3回の開催となっている。施設に「おぐら食堂」を開設し、近隣の方々に来てもらうときに運営推進会議を開催する企画を立てている。	市や地域包括へ出席依頼をし、予定通り年4回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市の担当には運営に関しての相談をしている。	各種変更届・事故報告や入居者の入退所等を相談するなど連絡を密に取っている。地域包括が主催する千城台圏域地域密着型サービス会議に施設長が参加し、他の施設等との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう、日常的に指導を行い、チェックをしている。	3ヶ月に1回行う「身体拘束」チェックシートを施設長が集約した後にもう一度全員で会議をし改善に努めている。また、全員の会議終了後に更に施設長と2人のケアマネの3人で会議を行い、総括したものを回覧でフィードバックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に虐待・不適切なケアについてチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に具体的に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族様アンケートの実施。 日頃からご家族様と面会時に話す時間を設けている。面会が少ないご家族様には電話等行っている。	家族の意見・要望を記載するために家族ノートがある。中には、洗濯物は持って帰るため洗わない事などが書かれている。また、スタッフが家族に同じことを言わない様に申し送りノートとしても活用している。家族に対しては、毎月利用者の健康管理表のコピーとマネージャーや担当者のコメント、利用者の写真等を掲載した「千葉小倉通信」を送付し意見等を募るようにしている。	運営推進会議や家族会への参加を今後も継続して促し、多様な意見交換が行えることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議、ユニット会議の実施	日常的に職員とのコミュニケーションを大切にしているが、今後4半期ごとに個人面談を実施する予定である。スタッフアンケートで新入職員が入所した時は飲み会を行う等プランニングを作成して楽しく働ける様に皆で考えている。若い職員の育成を兼ねて「おぐら食堂」の運営計画を立案させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回全体会議、ユニット会議の実施 個別の指導を行っている 資格支援制度の共有		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛の家グループホーム内ではヘルプスタッフをお願いし、他施設へ勉強する機会がある。千葉リア合同行事が年2回実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様とコミュニケーションを図り、記録に落とし、共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、職員が面会時にご家族様と話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の要望をご家族様に伝えることも多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持った生活ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様同士の関係性を築いている。 (居室移動、ユニット移動)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どんな方でも面会できるよう、ご家族様には声掛けを行っている。	近隣の方の入所が多いので、頻繁に友人が面会に来て居室で毎回1時間以上話をしている。家族と外食をしたり息子が美容室へ連れて行ったりもしている。若い職員が多く運転が苦手だったり、出来なかったりで外出支援が少なかったが、運転の得意な職員が入社したので、今後は外出支援の計画を立てる予定でいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を築いている。 (居室移動、ユニット移動) 看取り介護をご利用者様と一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様が来てくださることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に合わせて居室づくりを行っている。	家族と一緒に生活が本人の希望にも沿う形と考え、家族の訪問時には一緒に寛いでもらえるような環境づくりに努めている。また、居室内に自分の冷蔵庫を置き、自分で食べたいものを一緒に買い物に行ったりしている。すると、お店から、お裾分けではないが職員にも食べ物や渡してくれたりして、職員との信頼関係が築かれているようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランに組み込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1時間毎に巡視をし、会話等も記録に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1時間毎に巡視をし、会話等も記録に記載している。	9月よりアセスメントシートを居室担当のスタッフに作るようにさせた。若い職員に今後中心になって活躍してもらおうという意味も含め、居宅介護経験のあるケアマネージャーが独自のアセスメントシートを作成し、家族からの話しを聞き、利用者の生活歴が把握できるような様式に変えた。チームケアとしての新たな動きが始まっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアプランを入れ、職員一人、ひとりがケアプランを理解し、記録をかけるよう工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の対応について、職員が相談できる体制を整え、アドバイスを行えるようにしている為、柔軟な対応ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム近隣の入居が多くなって来た為、地域の方がいつでもホームに来ていただける環境をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には常に相談、対応ができています。	入居前からのかかりつけ医にかかっている利用者は、そのまま従来の医師に診てもらっている。入居後、家族の対応が難しい場合、ホームの提携医に切り替えることもある。提携医とは、月2回の往診をお願いしており、SNSを利用した24時間体制を敷いて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時に常に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院より往診医が来ているため、入院、早期退院ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とは状態変化など、密に連絡を行っている。医師、看護師への相談等も常に行える体制が整っている。	一人ひとり看取りの対応希望が違うため、医師の診断結果を待って、個別の看取り研修を行い、ホームとしての体制を組むようにしている。ホーム内の利用者同士は仲も良く、重度化してくる仲間を心配し、職員だけではなく利用者も最後まで一緒に見守ってくれ、何か変化があると職員に直ぐに連絡してくれるといった協力体制が取られることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には救命講習会の参加を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の参加を順に実施している。	5月に消防訓練をし、12月には消火訓練を予定している。訓練には近隣の参加も期待し、民生委員に声掛けをしている。10月には自治会主催の消防訓練にも参加している。今年の台風、集中豪雨発生の際は、利用者・職員共同で窓にテープを張ったり、段ボールを全居室に貼って緊急時に備えた。	地域の人に対する消防訓練時の周知を図ってこなかった。回覧等を活用して参加を呼び掛けるなどの取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に合わせて声掛けを変えている。	尊厳を守るということを根底にトイレ、入浴、起床介助の際は、本人に合わせた声掛けに注意している。一例を挙げると、排泄後お尻が濡れていた場合取り換えが必要であれば、本人のプライドを傷つけないようにそっと声を掛けをするように注意している。その他、ホームの方針として本人の自主性を先ず優先していることから、常に玄関は開けっ放しにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に傾聴できるよう、指導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を介護に変えるよう指導を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時にご利用者様に洋服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様のリクエストメニューを実施している。	常に「何が食べたい？」と聞くように努めている。要望に応じてあげることによって利用者は自分たちの欲求をかなえてくれるといった満足感に繋がりが、職員への信頼感も増すようである。ある時は「お芋が食べたい」という要望に、焼き芋を買って来て食べたこともある。利用者から要求が自由に出てくるような環境づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様に合わせて水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様に合わせて口腔ケアを実施している。歯科医師より指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツから布パンツに変更した方もいる。	排泄の支援によってオムツから布パンツに替わった方は、元の生活に戻ったという感触で解放感に浸り、久しぶりだと感激していた。排泄に対する自立支援をすることで、家族にとっては経済的負担も減り、本人にとってはトイレを使用することで安心して暮らせるといった満足感にも繋がることになり、意識して対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の提供や、ヤクルト、ヨーグルト、イモ類など、食事の際に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様に確認し、入浴を実施している。	入浴剤を使用してみますかと、本人に確認して入浴を楽しんでもらうこともある。入浴を楽しんでもらうことは、生活のリズムを掴んでもらうことにもなると考え職員は入浴介助を行っている。浴室内での安全対策としては、お風呂の中と外側に滑り止めを付けて注意を払っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤ではなく、夜間も職員が寄り添い、一人ひとりご利用者様に合わせ、入床時間を変えている。空腹時には夜食の提供なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、職員が把握できるよう、ファイルをいつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに反映している。いつでも外に出られる環境をつくっている。玄関は施錠していない為、自由に外に行かれる環境をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの近隣の方が入居できるように支援しているため、歩いてご家族様に家に帰っているご利用者様もいる。行きつけの美容室に通っているご利用者様がいます。外出行事を計画し実施している。	玄関は常に開けっ放しにして、自由に外に出られるようにしている。利用者は気ままに外に出て、庭を散歩したりお昼にはテーブルを外に出して皆で食事を楽しむ姿も見受けられる。近くのドラッグストアにはお茶が飲めるようにテーブルが置いてあり、地域交流の場ともなっており、出かけて行く利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	セブンイレブンやパン屋などお財布を持ち、買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が、定期的に電話して下さる。契約時に御本人の訴え時に電話支援をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の徹底を行っている。庭に花を植え、リビングに飾っている。	常で掃除、手すりを拭く等の役割分担して利用者も喜んで参加しており、おかげでホール内はきれいな状態となっている。季節に応じた花を庭に植えることで、季節感を味わってもらおう工夫もしている。庭の花を摘んで花瓶に花を生け、水をやる利用者の顔も生き生きとしている。最近ではドッグセラピーの効能も考え、犬も一緒にホームで暮らすことも検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室移動など、ご家族様に相談し行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく、家で使っていたものを持って来ていただけるようお話し、引っ越し等のお手伝いも行っている。	仏壇を持ち込むことで、亡くなったご主人といつも一緒にいるのだという気持ちになってもらうようにした。今では、仏壇の前でご主人に話しかけている。温かな利用者の顔を見ることもあり、環境の変化になれる上で馴染みの物の持ち込みが心の安定に繋がっているようである。また、ユニット内での人間関係づくりにも配慮し、1階にいるときは攻撃的だった人が2階に移すことで穏やかになったこともあり、住環境の中での人間関係にも注視している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の段差など、ご利用者様がわかるよう工夫をしている。トイレや居室も工夫をしている。居室でポータブルトイレを使用している。		